

ハーモニー

Harmony

第51号 2009年12月25日発行

日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座
後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

目 次

第17回学術集会（弘前）の報告 ～津軽の秋が輝いた～	2
第17回学術集会を終えて	2
第17回学術集会参加者の声	3
第17回学術集会アンケート結果	3
学会活動「養護教諭の職業倫理に関する規定」の経過報告(2) －第17回学術集会における1年次報告の概要等－	4
第17回学術集会プレコンGRES実施報告	5
2009年度総会報告（速報）	7
2010年度研究助成金研究の選定報告	8
事務局より	8
編集後記	8

第17回学術集会（弘前）の報告 ～津軽の秋が輝いた～



学会長 面澤 和子（弘前大学教育学部）

学会（10/10,11）前の数日間、今年唯一本州に上陸した大型台風18号の進路予報に釘付けになりました。10月8日（木）夕方に台風が三陸海岸沖に抜け、開催可能を確信し一安心。

本学術集会の参加者は約280名でした。学会テーマは「養護教諭の実践を問い直す—教育改革の中で—」。企画に際して、3つの主要なねらいがありました。

1. 盛昭子先生の特別講演「実践を支える『養護』の原理を求めて」で、日本の養護教諭の独自性について理論的に深める。
2. シンポジウム「養護教諭の実践を振り返って—一見えてくるもの—」で、中安紀美子先生の進行の下、シンポジストが自らの実践を振り返っての提案によって、参加者とともに議論を深める。
3. ミニシンポジウム「思いを語る—」では、大谷尚子先生のリードで、長い間全国の養護教諭養成の研究運動の中核を担ってこられた四人の先生方の思いを語り継ぐ場を設ける。

弘前だからできる歴史的な学会にしたいと願いました。遠方であるにもかかわらず、口演30、ポスター発表19と例年より多くの研究発表があり、抄録集に厚みが増しました。皆様のパワーに敬服しました。学会活動と参加者の距離を縮めるためのランチョンセミナー後の学会・理事の紹介、青森県の郷土料理を取り入れたお弁当、りんごジュース、懇親会での多田あつし氏他の津軽三味線演奏、料理等、青森らしさを味わって頂けるよう企画しました。もう少し時間的なゆとりを設けられたらおいしいコーヒーも味わって頂けたかな？と反省しました。皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

第17回学術集会を終えて



事務局長 小林 央美（弘前大学教育学部）

会員の皆様のご協力をおもちゃして、第17回学術集会を終えることができました。心より御礼申し上げます。

今回、「養護教諭の実践を問い直す」をテーマに養護実践に内在する考えや理論を引き出した、実践を多角的に捉える視点や切り口を考えたりできればと願い、講演やシンポジウム、ミニシンポジウム等を企画しました。

今、学会を振り返ると「感謝」という言葉が浮かびます。本企画の初回会議は3月7日という遅いスタートで、学会準備の仕事では「今日がタイムリミット」がまるで合い言葉のようでした。遅いスタートにもかかわらず、何とか学会を終えることができたのは、本当に多くの方々のお力のおかげです。講演講師、コーディネーター、シンポジスト、座長等をお引き受けくださった先生方、実行委員、協力員をお引き受けくださった先生方、そして発表や参加してくださった会員の皆様すべてに感謝申し上げます。

また、今回弘前大学の学生や院生もお手伝いとし運営に参加しました。至らない点も多かったと思いますが、皆様からお褒めの言葉をたくさん頂きました。学生は当事者としての意識をもって参加し、対応していくことの大切さを学ばせていただき、よい経験だったと思います。

最後に、私事で恐縮ですが、最後の1週間を乗り切れたのは学会の仲間からの一筆箋でした。「今頃は学会準備で多忙なことでしょう。疲れた時、そお〜っと口の中に入れてみてください（チョコレート）。きっと元気になりますよ。央美さんの笑顔に会いに参ります」

厳しい学問的追究とこのような深い優しさの両面を持ち合わせた学会なのだと思います。第18回学術集会の成功を願い、バトンをお渡します。

第 17 回 学術集会 参加者の声

学会長講演をききながら

佐藤 理 (福島大学)

今年 9 月東北学校保健学会を福島大学で開催した折り、残り 1 ヶ月となり準備で大忙しの面澤学会長が遠路参加して下さいました。会長講演「日本の養護教諭と諸外国のスクールナース」は、諸外国の同様な職種に関する制度・機能との比較研究から養護教諭の特徴を捉えるとともに相対化を試みるという、研究者としてスタートした当初からの問題意識にもとづくもので興味深いものでした。20 か国以上に足を運び、調査やインタビュー、学会参加とエネルギーに取組んでこられた成果の一端を話されました。

学会といえば一緒にセントルイスで開催された米国际学校保健学会に参加する機会がありました。もうすっかり顔が知れわたっており、しきりに“KAZUKO”と声がかかっていたことが思い出されました。

原点に気づかされた弘前学会

堀川 敏子 (上越教育大学大学院)

私は今年 3 月からの新米学会員です。31 年間養護教諭をし、20 年 3 月末の定年退職後から、大学院で自分の来し方を検証している所です。現職時代、この学会は「養護教諭養成に関わる人」の為のものと考えていたり、日々の仕事や自主研修活動に追われたり、「本学会」は遠い存在でした。入学後に本学会誌に触れ目的を知り、恐る恐る入会しました。

今回、不十分さは感じつつも、自分なりの実践の一端が、少しでも現職の方々の参考になれば幸いと考え発表してみました。発表では準備も含め多くの学びを経験しましたが、本集会の盛昭子氏の特別講演「実践を支える『養護の原理』を求めて」を拝聴できたことが一番の収穫でした。私が 31 年間養護教諭に惹かれ続けた原点に触れた思いでした。久々に身体が震え熱くなりました。

りんご色のまち HIROSAKI で学んで

上村 弘子 (岡山大学)

「養護教諭の実践を問い直すー教育改革の中でー」のメインテーマのもと、運営の皆様の温かで細やかな心配りにやわらかな気持ちで参加させていただくことができました。

面澤学会長が、スクールナースとは異なる養護教諭の特色を「同じ学校に毎日勤務し、全ての子どもたちを対象とする教諭」と話されました。私自身が海外で活動する中で日本独自の職種として Yogo teacher を説明する難しさを痛感していましたので、深く頷いてしまいました。いつもそばにという養護教諭にとってあたり前のことが、実は特別なのだと思いました。

改めて専門職として「ふりかえり、みつめる」ことの大切さを感じ、自分自身の実践を見つめなおす 2 日間となりました。多くの皆様と学びを共有させていただきましたことに深く感謝いたします。

第 17 回学術集会アンケート結果

日本養護教諭教育学会第 17 回学術集会を無事に開催することができ、本紙にて会員の皆様にご報告できますことを大変嬉しく思います。学術集会の際にいただきました貴重なご意見をまとめましたのでご報告致します。

実行委員会

回答者の地域

青森県 (5)、青森県以外の東北・北海道 (21)
他県 (26)、無回答 (3)、計 55 名

1. 学術集会開催を知った情報源 (複数回答)

ハーモニー (20)、チラシ (18)、学会誌 (16)、
雑誌 (16)、ホームページ (10)

○会員の皆様に向けてのハーモニーや学会誌、また、チラシや雑誌等会員以外の皆様へのご案内がそれぞれ効果的だったものと思います。また、東北は会員数が少なく、東北での開催も 13 年ぶりということもあり、東北 6 県の教育委員会のご後援を頂き、できる限り東北の関係者や養護教諭の先生方へご案内が届くように工夫致しました。

2. 興味を持った内容（複数回答）

一般演題（31）、シンポジウム（24）、特別講演（21）、学会長講演（15）、教育講演（12）、ポスター（12）、ミニシンポジウム1（11）、ミニシンポジウム2（10）、テーブルセッション（10）

研究発表への関心の高さがうかがえました。会員のご発表と参加者相互の追究があったものと思われまます。また、学術集会のメインテーマに合わせて企画した、シンポジウムや講演、ミニシンポ1などは好評でした。現代的課題を取り上げたミニシンポ2とテーブルセッションにも関心が寄せられました。

3. 運営に関する感想・意見

①会場へのアクセス

大変よい（9）、良い（16）、普通（23）良くない（7）

②会場の広さ

ちょうど良い（50）、狭すぎる（5）

③会場の設備

十分（35）、改善必要（10）、無回答（10）

マイクの調整や空調に改善要望がありました。不備な点があり、申し訳ございませんでした。

④スタッフの対応

大変良い（38）、良い（14）、普通（3）、良くない（0）

⑤学会日程

適当（53）、短縮（0）、長く（1）、無回答（1）

4. 自由記述

「実践に注目し深く考えさせられた」「意義深い内容でした。運営もとてもよかった」「とても有意義な時間を過ごせた。スタッフの対応もよく、学生さん達の細やかな配慮に感心した」等の嬉しいお言葉をいただきました。

また「学会とすれば実践から理論をもう一步・・・」「ポスター発表が同会場で2つだったので聞き取りにくいところがあった。ポスター撤去の時間が早い」「発表が午前集中していた」等の反省点も上げられました。

5. 次年度学会に取り上げてほしいこと

「実践をどのように研究として理論化するか、今回のシンポジウムのようなテーマを取り上げてほしい」「研修の現状と課題」「養成の一本化の方

向性」「実践を平たく意見交換」「ケースメソッド等参加型の時間があるといい」「子どもの貧困」等多様な要望があり、関心の高さが伺えました。

アンケートにご協力いただきました方々にお礼申し上げます。皆様からの貴重なご意見・ご要望は、第18回学術集会の実行委員会へ申し送りさせていただきます。

学会活動

「養護教諭の職業倫理に関する規定」 の経過報告（2）

—第17回学術集会における1年次報告の概要等—

委員 竹田由美子（東京福祉大学）

【本検討委員会の設置経緯】

経過報告の第1報はハーモニー第49号（2009年6月12日発行）に掲載しましたが、その際、本検討委員会の設置経緯や学会での位置づけについて解説しませんでしたので、ここにふれておきたいと思います。

初めて「養護教諭の職業倫理」が話題になったのは2007年4月の理事会でした。2007年度の助成金研究として申請された研究テーマの中に「養護教諭の倫理綱領」に関するものがあり、その採択をめぐって議論したことが発端です。種々協議の結果、個人研究で進めるには大きなテーマであることから、次年度以降の学会活動に位置づけて検討することにしました。

会則改正によって2008年度の学会事業として学会活動委員会の発足が掲げられたことから、その中の臨時の委員会として、当時の鎌田理事と竹田理事による「養護教諭の職業倫理に関わる規定（仮称）を検討する委員会」が立ち上がりました。

この委員会への参加者をハーモニー第46号（2008年6月18日発行）で募集し、中村朋子・丸井淑美・吉田あや子・渡邊敦子（以上、敬称略）の4名の会員からの応募があって（ハーモニー第47号にて報告）、「養護教諭の職業倫理に関する規定の検討委員会」（鎌田代表）が発足しました。

【これまでの検討経過】

☆2008年10月：理事会主催のプレコンgres

(第16回学術集会／岡山)で、「養護教諭の職業倫理」に関する意見交流を行いました(ハーモニー第48号にて報告)。

合わせて、6人の研究成果を一般演題「養護教諭の職業倫理に関する文献研究」として鎌田代表が発表しました。

☆2009年2月～3月：プレコンGRESの参加者を中心に倫理的判断やジレンマに関する調査を行いました(ハーモニー第49号にて報告)。

☆2009年10月：1年次報告を第17回学術集会(弘前)で行いました。

【1年次報告の概要】

学術集会の2日目(10月11日(日)11:10～11:40)、学会活動委員会報告として徳山美智子理事の座長のもとで中村朋子委員が「養護教諭の職業倫理綱領(行動指針・実践の基盤)の構想と内容検討ー試案作成に向けて(1年次報告)ー」と題した発表を行いました。副題が示すように、職業倫理綱領試案の作成の経緯を紹介し、当日の配付資料によって前文と15の条文からなる試案の例を提示しました。条文の項目は下記のとおりです。

- 条文1：生命・尊厳、基本的人権、
発育・発達権
- 条文2：公正・平等
- 条文3：アドボカシー、擁護・唱導
- 条文4：自己決定権、意見表明権、
ヘルスリテラシー
- 条文5：守秘義務
- 条文6：危機からの保護・安全
- 条文7：個人としての責任能力と説明責任
- 条文8：連携・協働して健康課題の解決
- 条文9：行動基準の遵守と質の向上
- 条文10：ヘルスプロモーション
- 条文11：政策・法・制度に働きかけ
- 条文12：研究・研修／資質・力量の向上
- 条文13：知識・技術の開発と学問の発展
- 条文14：信頼と人格の高潔、後継者養成
- 条文15：自己の健康管理

今回の試案例示には、「職業倫理綱領」とはいかなるものなのかを具体的にイメージしていた

だくというねらいがありました。この例をたたき台として、参加者には必要性や修正したい内容、加えたい内容などを調査しました。結果は分析中です。

質疑応答では、内容の加筆・修正などに関する意見の他に、「発表の場で試案を出され、意見を求められても難しい」、「学会としての合意や現場を得る必要がある」、「このような試案になった根拠を丁寧に紹介してほしい」などの意見が出されました。

合わせて、6人の研究成果を一般演題「養護教諭の職業倫理綱領は誰のため何のために必要かー職業倫理観の共通理解を図るー(鎌田代表ほか)」と、ポスター発表「養護教諭の職業ジレンマに関する研究ー事例から見る養護教諭のジレンマと職業倫理ー(丸井委員ほか)」として発表しました。

【今後の予定】

学術集会での意見を受けて、2010年1月の理事会で今後の研究の進め方を検討します。2010年10月の第18回学術集会(大阪)では2年次報告として「職業倫理綱領(案)」及び解説文の提案を行って意見交換を行い、2011年3月には検討成果を学会誌で公表する予定です。今後の検討結果は、ハーモニーや学会HPを用いて逐次お知らせします。その際には、会員の皆さまからの忌憚のないご意見・ご質問をお願いいたします。

プレコンGRES実施報告

学会活動委員会

1. 期日：平成21年10月10日9:30～11:20
2. 場所：弘前大学文京町キャンパス
3. 課題：「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」の検討ーパート3ー

<趣旨>近年の中央教育審議会答申並びに学校保健安全法の施行の動向を踏まえた意見交流により、今後の「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」見直しの参考資料とする。

4. 参加者

養成関係者が最も多く、次いで現職養護教諭、学生などの計42人であった。

5. プレコングレスの流れ

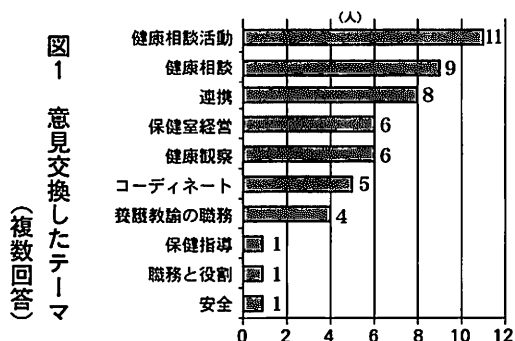
次のように進行した。班編制は6人程度とした。各班で世話人と記録、発表者の係を決めるという進行の工夫を行った。

- ①理事長挨拶及び学会活動担当常任理事による趣旨説明
- ②進め方の確認と進行
- ③班分けと各班での自己紹介
- ④各班での選択課題の討議
- ⑤各班の検討結果の発表
- ⑥意見交流とアンケート記入
- ⑦まとめ

6. 検討結果

1) 意見交換した課題

各班の意見交換で取り上げた課題は図1のとおりである。多かった順に「健康相談活動」「健康相談」「連携」「保健室経営」などであった。これらは、中央教育審議会答申、学校保健安全法などの動向から検討すべき用語として取り上げられたと考えられる。



2) 各班の検討結果の概要

各班で意見交換した内容を表1に示した。

3) プレコングレスに参加しての意見や感想

【現職養護教諭】

- 新たな気づきがあった。
- 冊子にして販売して欲しい(2人)
- 有意義な討論であった。
- 大変勉強になった。(2人)
- 運営が勉強になった。
- 学会活動の位置づけがよい
- ちょっとついていけない所もあった。
- 中央教育審議会答申、通知、学校保健安全法の3点セットの資料がよかった。
- HPにアップして欲しい。

【養護教諭養成】

- HP上での意見交流をする(4人)。
- 連携、コーディネーターの議論で整理できた。
- 合理的な運営がいい。
- 冊子の販売を考えて欲しい。
- 新規の用語を加える。
- 遠方の参加者は前日入りしているのでこの時間の企画は参加できた。
- 会の運営がスピーディでいい。
- 用語に関する検討委員会を立上げて欲しい(3人)。
- 班毎の討議がよかった。
- 資料があり議論が活発になった。

【養護教諭教育行政】

- 短時間だったが、皆様が意見一致して学びあえてよかった。
- 用語集のさらなる改善を加えたものが欲しい。
- 遅刻して参加したが短時間でも意義があった。
- さらなる作業により報告書をまとめて欲しい。

4) プレコングレスの運営等について

- プレコングレスの進行(時間配分)は
 - ア、適切であった 92%(36人)
 - イ、改善して欲しい 8%(3人)
- プレコングレスの資料は
 - ア、適切であった 98%(41人)
 - イ、改善して欲しい 2%(1人)

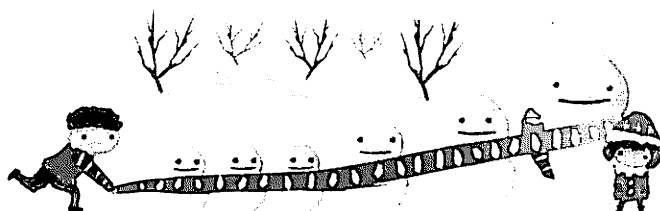
7. まとめ

少人数による意見交流を行ったことは一人一人が主体的な意見を示す企画として意義深かった。

各班が取り上げた用語について「定義」の見直し指摘されており、その背景には学校保健安全法の施行などがかわっていると捉えられる。「用語の解説集の見直し」は、学会活動委員会が中心になって進めていく事業であり、プレコングレスの意見は今後の活動に参考となる内容であり、有意義な企画となった。自由記述の中の意見では、用語の解説集の見直しのための委員会(プロジェクト)を立ち上げて欲しい、HPで広く公開して欲しい、ネット上で用語の学びができ論文作成に活用した、冊子を有償販売したらどうか等の意見が示された。各用語の定義はすでにHP上で見ることができるが、全ページのアップにも至急対応すべきと思われた。(文責 三木とみ子学会活動担当常任理事)

表1 班ごとの検討内容

班	選択した用語・テーマ	各班の参加メンバー	用語の必要性	見直しの要点
1	健康観察	現職(4) 養成(1) 元養成(1)	必要	・法改正と通知を踏まえ定義見直し ・自己管理能力の視点
2	コーディネート・連携	現職(1) 養成(6)	必要	・一般的定義を踏まえた養護教諭としての定義を検討
3	養護教諭の職務	現職(1) 養成(6)	必要	・職務と役割の区別・学校教育、昭和47年・平成9年保体審 ・平成20年中教審答申、ヘルスポモーション
4	健康相談	現職(1) 養成(4) 学生(1)	用語の追加希望	・学校保健法第11条、学校保健安全法第8条の健康相談 の捉え方と用語の定義必要
5	保健室経営	現職(3) 養成(2) 行政(2)	必要	・中央教育審議会答申、経営とは何か・保健室経営計画
6	健康相談活動・連携	現職(2) 養成(1) 元養成(1) 院生(2)	必要	・「養護教諭の行う健康相談」の定義を創設し発信
7	健康相談 健康相談活動	養成(5) 院生(1) 行政(1)	必要	・健康相談活動は養護教諭の固有性で子ども達に対応 ・学校医や学校歯科医、学校薬剤師の行う健康相談と養 護教諭の行う健康相談の中央教育審議会答申の違い



日本養護教諭教育学会 2009年度総会報告(速報)

山崎 隆恵(総務担当常任理事)

今年度の総会は、第17回学術集会(弘前大学)の2日目13時10分～14時に会員173名(含む委任状104名)の出席により、面澤和子学会長と入駒一美会員の議長のもとで開催されました。以下に、審議・承認された議案の概略を報告します。

2008年度事業報告、2008年度決算・監査報告が原案通りに承認されました。2009年度事業経過報告では、学会活動委員会の事業として、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集に関する検討」を進めていること、「養護教諭の職業倫理に関する検討委員会」が活動していること、学会誌投稿奨励研究の選定のしかたなどについて検討したこと、学会誌の年2回発刊に向けた検討を行っていること等の報告がありました。

2010年度の事業計画が承認された後の予算審議では、選挙がないのに選挙管理委員会開催費が

計上されている理由についての質問が出されました。これについては、選挙を行う前年度の総会で委員を選出しなければならないため初回会合開催を予想した計上であることが説明されました。また、研究助成金研究への応募がなかった場合、次年度に予算を回して募集件数を増やしてほしいという要望が出されましたが、予算全体を見渡して決めたい旨の説明がなされました。

2010年度研究助成金対象研究として、新規1件と継続1件が承認されました。(詳細は、次項の選定報告をご覧ください。)

学会誌投稿奨励研究の選定方法等については、学術集会で会員が発表した研究に対して学会長などから推薦を受けたものの中から理事会において選定し、学会誌への投稿を勧めるとともに査読費用を免除する特典を与えるという趣旨や選定基準等が承認されました。

学会誌「投稿規程」の改正では、「再投稿」についての文言と期日などを整理する趣旨が説明さ

れ、改正案が承認されました。

第19回(2011年)学術集会の開催地は埼玉県で、学会長は三木とみ子学会活動担当常任理事(女子栄養大学)に依頼したことが報告されました。

その他として、学会への参加呼びかけを行ってほしいとの要望が出され、理事長より未だ現職養護教諭の人たちに知られていない状況があるので、HP等を充実させ宣伝に努めたいとの回答がなされました。合わせて、会員増が進まなければ学会誌の年2回発刊の実現にむけて会費値上げを検討する必要も生じることが説明されました。

総会の後、第18回学術集会の楠本久美子学会長(四天王寺大学)より、2010年10月9日(土)～10日(日)に大阪府教育会館たかつガーデンで開催するとの挨拶がありました。

2010年度研究助成金研究の選定報告

高橋 香代(学術担当常任理事)

2009年9月10日の締切りで募集した2010年度研究助成金対象研究には、会員から2件の応募がありました。選定作業は、10月9日開催の第3回理事会において、選定基準(2006年度総会承認)に則って行いました。その結果、研究の目的・独自性、研究方法、助成金の使途が適正であることを確認し、下記の2題を選定いたしました。

選定した研究課題は、1)「養護教諭の学校経営参画に関する研究—学校組織力の開発活動の実際—」(新規)(申請者 留目宏美 聖路加看護大学)、2)「養護診断における効果的な問診に関する研究」(継続)(代表者 吉田あや子 西南女学院大学)であり、2009年度総会にて承認を受けました。なお研究助成金を受けた研究は、成果を学術集会及び学会誌に発表することが義務づけられています。研究助成金対象研究は、学会共同研究とは異なり、会員が自主的に応募する研究です。2011年度研究助成金対象研究の募集も来年度に実施予定です。会員の皆様にはご準備をお願いします。

また、学術大会の一般発表から優れた研究を推薦する「投稿奨励研究」制度が、2009年度総会で制定されました。2010年度に開催される第18回学術集会からスタートいたします。学会員の皆様の研究を推進する新しい取組ですので、ご協力をお願いします。

事務局より

下村 淳子(事務局長兼任理事)

☆「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第一版>」をHPにアップしました。

学会活動委員会では、用語の解説集<第一版>の見直しにむけた検討を進めています。そこで、会員以外の方からもご意見をいただきたいと考え、学会HPから全ページがダウンロードできるようにしましたのでご活用下さい。また、改訂にむけたご意見は事務局宛にお寄せ下さい。お待ちしております。

☆学術著作権協会より論文の複写代が分配されました。

学会誌に掲載されている論文の複写サービスを委託している一般社団法人学術著作権協会から、2009年の分配金として15,765円の支給がありました。この分配金も本会の貴重な収入源になっています。

☆学会誌の販売について

学会誌第5巻と第6巻を販売しています。ご希望の方は事務局までお申し込み下さい。第1～第4巻と第7、8巻は販売を終了しました。

☆会費納入のお願い

年会費未納の方に、振り込み用紙を同封しました。会費を2年間滞納している方には3月発刊予定の学会誌送付を見合わせますのでご承知おき下さい。また、退会届を出さずに2年が経過して自然退会になった場合でも、未納分の会費は全額お支払いいただくこととなりますのでご注意下さい。



会員みなさまにハーモニーがクリスマスプレゼントとして届くように取り組みました。来年も力を合わせてよい仕事ができますように。よいお年をお迎えください。(K)